外注化阻止ニュース 第４０５号

〔発行日〕２０１８年１２月１９日
〔発　行〕動労千葉を支援する会
千葉市中央区要町２－８ＤＣ会館
http://www.geocities.jp/dorosien28

ＪＲの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

ダイ改「組合には事前提案しない」

闘う労働組合を職場に取り戻そう！

ＪＲ東日本は11月22日、グループ会社69社を集めてグループ社長会を開催しました。そこで深澤社長は、〝今春から進めている職場改革〟に触れて「緩やかな情報交換の場である社友会を通じて会社の考えを社員に伝える」と発言したと報じられています。グループ会社を含め、会社の労働組合破壊が新たな段階に入っていることを示しています。

〝規定変更なければ提案必要ない〟

実際、会社は来年3月ダイ改をめぐるやり取りの中で、「今後ダイ改の概要提案は行わないことにした」と一方的に通告しました。プレス発表前に事前に労働組合には提案しないというのです。

それだけではありません。乗務員基地再編で西船橋に運輸区を作るという重大な計画であっても、業務用タブレットにデータを配信するだけで、労働組合には資料を渡していません。社員への説明もなく、「組合から要求があれば交渉だけはする」という態度です。

会社は「タブレットに配信したから社員への周知は行われている」「就業規則など規定変更が伴わない施策を労働組合に提案する必要はない」という形で、労働組合を完全に無視しようとしています。こういうやりかたで、あらゆる施策を一気に、一方的に進めようとしているのです。

職場からの反撃が攻撃を止める力

すでに会社は、10月20日に強行された常磐線特急の車掌1人乗務化、秋葉原駅の3月1日全面外注化の提案、年末年始にかけては山手線全線で自動運転の試験を行うと発表しています。

来年3月ダイ改と同時に強行が狙われている乗務員勤務制度の改悪は、乗務員のさらなる労働強化と要員削減をもたらします。そして、会社は職場から労働組合の力を一掃することを狙っています。

労働組合のない、一言も声をあげられない職場にさせてはなりません。職場から乗務員勤務制度改悪・ダイ改合理化反対の声をあげ、闘う労働組合をとり戻そう。

究極の安全が事業基盤

ＪＲ東日本グループ社長会

あいさつする深澤社長

ＪＲ東日本は22日、東京・池袋のホテルメトロポリタンでグループ社長会を開催した。同社とグループ会社69社から約260人が出席した。

あいさつに立った深澤祐二社長は、7月に策定したＪＲ東日本グループ経営ビジョン「変革２０２７」に触れ、「（関係者からは）好感を持って受け止められている」とした上で、ビジョンに盛り込んだ取り組みを進めるに当たり、「究極の安全を目指してグループ全体で愚直に取り組んでいくこと」が、今後われわれが事業領域を広げていく基盤となる。グループ会社の皆さんが『変革２０２７』の中で具体的に何をしていくのかを考え、議論してほしい」と訴えた。

近年、自然災害が各地で激甚化していることについて、「耐震補強や計画運休などの事前の対策と、情報提供などの事後の対策についてしっかりとした準備をしていくことが大切。特に事後については情報提供を含め、年内には準備ができるだろう」と述べた。

また、今春から進めている職場改革を挙げ、「社員との接点として、緩やかな情報交換の場である社友会があるが、こうした集まりを通じて会社が考えていることを社員に伝えるとともに、社員の考えをきたい。能力を発くって…

11月に安全5カプ安全計ついては組みの革，を進と強調し

続いて長、川野道事業本